
脇役は脇役で

黒雪

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

脇役は脇役で

【Nコード】

N7363Y

【作者名】

黒雪

【あらすじ】

脇役系の主人公の恋物語。脇役が居れば主人公も居る。脇役系主人公は、見事ヒロインの心を射止めることが出来るのか？ プロットとか考えていないこの話に、請わぬご期待！
細かく区切っていくと思うけど、あまり気にしないで。
さ・い・ご・にっ、更新は不定期だぜ？ 文句はなしだっ！

散り際には笑みを（前書き）

どんな種類だろうと

散り際には笑みを

「好きです、付き合ってください！」

頭を下げて、ラブレターで呼び出した意中の女子生徒に頭を下げる。きっと彼女はいつもと変わらない様子だろう。

こんな展開を予想できた、ということでもあるし、予想できなかったとしても変わらないだろう、という俺の予想でもある。

「ごめんなさい」

いつもと変わらぬ、淡々とした声。

頭を上げる。俺の顔にあるのは絶望などではなく、やっぱりなという自嘲の笑み。その笑みを見てか、注視しなければ分からない程度に表情を変え、小首を傾げる彼女のその姿は可愛く、振られたと分かっていても、そう簡単に諦めたり切り替えたりできないな、と思う。

そんな貴重な姿を見られて嬉しい、という気持ちはあれど、今のこの状況に、やはり笑みは相応しくないだろうな、とそれを引っ込める。

「こんなことのために来てもらって悪かったな。ありがとう」

「気にしてない。……用が終わったなら、帰っても良い？」

ああ、と頷けば、今の出来事などなかったかのように、平然と踵をかえして校舎の中に消えていく。

3月の中ごろ。明日には修了式を迎える一年生の俺は、大分高くなってきた、けれど既に赤い夕陽を眺めて一言。

「まあ、こんなもんだろ」

1人になった屋上で、浮かべた笑みは自嘲のそれだった。

満開の花には小さく(前書き)

大切なものを見守るように

満開の花には小さく

「錬次ー？ れーん！」

階下から俺を呼ぶ声が聞こえてくる。別に反応なんてせずとも、勝手にここまで上がってくるから気にしない。桜が舞うのを見下ろし、新二年新三年、新入生が登校してくる様を見下ろす。

俺が今居るのは屋上。普段は鍵がかかっているのだが、そこは俺を探している幼馴染の活躍と俺の機転により、この鍵を入手することになった。かなりギリギリだったのは秘密。

「やっぱ居た。反応くらいしろって毎回言ってるだろ？」

「居るって確信してるくせに」

「それとこれとは別なんだよ」

ギィイ、と錆びた音を響かせて扉を開けて出てきたのは、我が幼馴染たる新城優一だ。ルックス、成績に運動、おまけに性格まで良い完璧超人に見えるこいつが俺の親友だ。

日本人特有の黒髪を無造作に伸ばしているだけのくせに、なぜかあつらえたかのように優一に似合う髪形になる。今は、前髪は目にかからない程度で切られ、後ろは首の中ほどまで伸びている。

少し切れ長の目は、優しげな黒瞳を強調しているようにも見える。

対する俺。名前は柳錬次だ。少し伸びている髪は目にかかる程度、後ろは肩に届きそうなくらい伸びている。男にしては少し大きい目は、いつも眠たさだったりでっぴかり開いていない。優一には遠く及ばないものの、一般の男と比べれば決して劣った外見はしていないと思う。

学業はそこそこ。良くも悪くもない、と言った具合。運動神経は割と良いほうだが、これも優一には及ばない。武道では勝てる競技も

あるにはあるが。

性格に関しては、あまり良いほうではないだろう。

良く言えば冷静沈着、悪く言えば無関心。近いようで、まったく似ていないその二つで俺は知られている。まあ、そこそこ仲の良い奴だけにだが。優一のように、まったく知らない人でも俺を知っている、なんてことはない。

「そろそろ戻ってこい。体育館に移動し始めるしな」
「ん、了解」

迎えに来た優一の後を追って、肩に舞い落ちた桜の花びらを払って校舎の中に入る。

満開の花には小さく(後書き)

まだまだこのページで物語は進行するよ！ 更新は不定期だがな！

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n7363y/>

脇役は脇役で

2011年11月22日02時00分発行